

使いこなすために

このパソコンならではの機能のご紹介や、このパソコンを使いこなすための細かい設定方法などを説明しています。

搭載されているアプリを使う（@メニュー）	2
My Cloud プレイを活用する	3
いつもアシスト ふくまろ	6
Windows Hello	9
インターネットを安心してお使いいただくには	13
スリープ／休止状態	16
ディスプレイ	23
サウンド	38
通信	48
アプリ	65
BIOS の設定	72
BitLocker ドライブ暗号化	83

搭載されているアプリを使う（@メニュー）

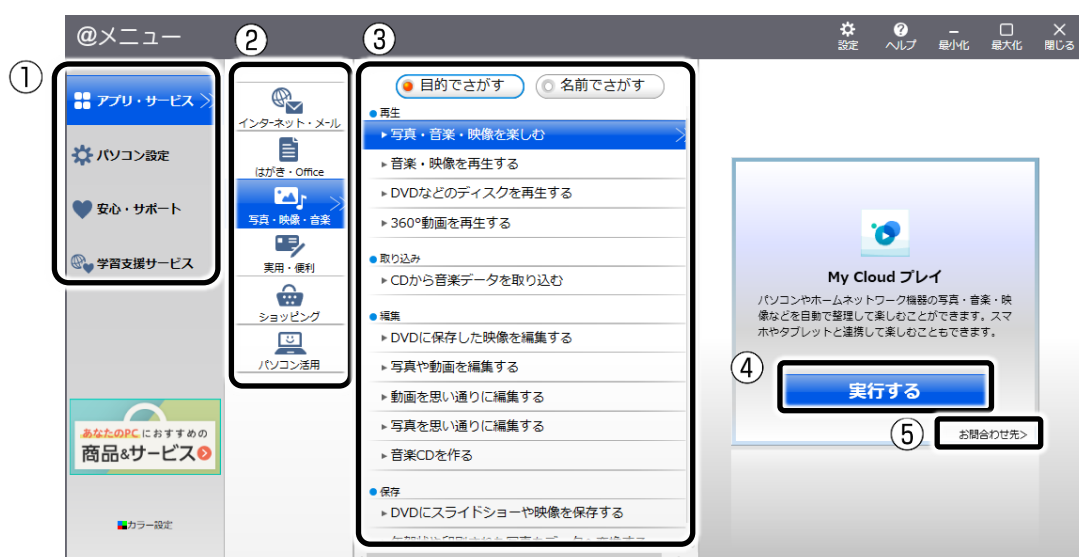
このパソコンには、搭載されているアプリを簡単に探すための、「@メニュー」が搭載されています。

やりたいことがあるけれど、どのアプリを使えばよいかわからないときは、「@メニュー」で探すことができます。

「@メニュー」の使い方

1  ▶ 「@メニュー」 ▶ 「@メニュー」の順にクリックします。

2 次の画面の操作をします。



（画面は機種や状況により異なります）

- ①カテゴリを選択します。
- ②ジャンルを選択します。
- ③やりたいことを選択します。
- ④「実行する」をクリックします。

Point

- ▶ アプリを起動する方法は他にもあります。
サポートページの「Windows 10 スタートガイド」(<https://azby.fmworld.net/win10/>)をご覧ください。
- ▶ このパソコンに搭載されているアプリの一覧は、富士通製品情報ページ (<https://www.fmworld.net/fmv/>) に掲載されています。
- ▶ ⑤が表示されている場合はクリックすると各アプリのお問い合わせ先を確認することもできます。

My Cloud プレイを活用する

「My Cloud プレイ」は、パソコンや Blu-ray/DVD レコーダーなどに保存してある写真・動画・音楽・録画番組などをまとめて管理して楽しむことができます。写真を加工したり、BGM 付きのデジタルアルバムを作ったり、音楽を聴いたり、録画番組を見たりすることもできます。

Point

- ▶ すべての機能をお使いになるには「ストア」で最新版にアップデートしてください。初期設定では「ストア」から自動的にアップデートされるよう設定されています。「ストア」の設定でアプリの自動更新をオフにしないことをお勧めします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「My Cloud プレイ」トップ画面

- ▶ 詳しい使い方については、「My Cloud プレイの紹介ページ」(https://azby.fmworld.net/mycloud/apps_top/play/) から My Cloud プレイのマニュアルをご覧ください。

「My Cloud プレイ」でできること

■ 写真をもっと楽しむ

たくさんの写真データを自動で整理して、アルバムでまとめたり、選んだ写真を編集したりと、さまざまな方法でお楽しみいただけます。

□ おまかせアルバム

写真の撮影日、場所などを分析してイベントごとにまとめたアルバムを自動的に作成します。

□ フォトギャザー

類似写真をまとめて表示し、一番ピントの合ったベストショットを自動で選択します。いろいろな写真を整理したり、プリントする写真を選んだりするときに便利です。

□ オリジナルアルバム

お気に入りの写真を選んでアルバムを作成することができます。さらにお気に入りの音楽を選んで BGM 付きのアルバムも簡単に作成できます。

□ 成長フォトムービー

人物ごとにまとめられた写真一覧からワンクリックで、1 年分の写真をピックアップし、子供の成長が感じられるムービーを自動的に作成します。



■ 録画番組・音楽・写真・動画を楽しむ

ホームネットワーク上の音楽、動画、録画番組なども簡単に管理することができて、写真と同様に自動で整理してくれます。

Point

- ▶ Blu-ray/DVD レコーダーなどの録画番組をパソコンへ取り込むには、MyCloud アカウントでログインする必要があります。

「My Cloud プレイ」には、この他にもさまざまな機能が搭載されています。まずは一度お試しください。

「My Cloud プレイ」を使う

- 1 「FMV ポータル」の順にクリックします。



タイルが見つからない場合は、画面を上スクロールしてください。

- 2 「FMV ポータル」という画面が表示されたら、「My Cloud プレイ」をクリックします。



- 3 「My Cloud プレイ」という画面が表示されたら、「My Cloud プレイを今すぐ試してみる」をクリックします。

「My Cloud プレイを今すぐ試してみる」が見つからないときは画面をスクロールしてください。

- 4 この後は画面の指示に従って操作します。

「My Cloud プレイ使用許諾契約」が表示された場合は、よく読んで「同意する」にチェックをつけ、「OK」をクリックします。

「My Cloud プレイ」のトップ画面が表示されます。

いつもアシスト ふくまる

「いつもアシスト ふくまる」はふくまろと会話することで生活に便利な機能を楽しむことができるアプリです。ふくまろに話しかけると、パソコンの音楽や写真を再生したり、インターネットでラジオやYouTubeを再生したり、外出中のお部屋の写真をスマホに送信したりしてくれます。

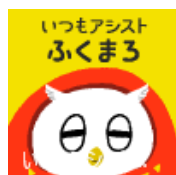
Point

- ▶ 新しい情報については「いつもアシスト ふくまるの紹介ページ」(<https://azby.fmworld.net/itsumo/fukumaro/>)をご覧ください。

「いつもアシスト ふくまる」を使う

■ 起動する

1



(いつもアシスト ふくまる) の順にクリックします。

ふくまろからのメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って操作してください。

- 2 使用許諾契約書が表示された場合は、よく読んでから「利用許諾に同意する」をクリックして  にし、「つぎへ」をクリックします。

この後は画面の指示に従って、待ち受け時間やマイクやカメラの使用などの初期設定を行ってください。

3 使い方の説明（チュートリアル）が表示されたら、読み進めます。

「いつもアシスト ふくまろ」を初めて起動したときは使い方の説明（チュートリアル）が表示されます。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）



以下のような画面になりましたら準備完了です。



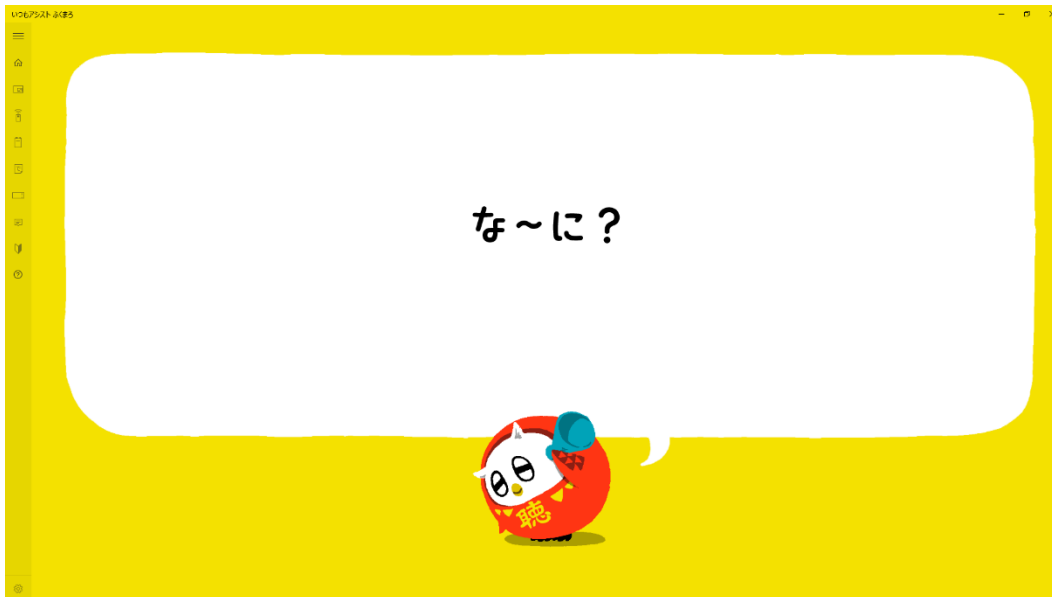
Point

- ▶ 初回起動時に設定を完了させると「いつもアシスト ふくまろ」のアプリを起動しなくても「ふくまろ」という言葉に反応してくれるようになります。

■ ふくまろと会話してみる

□ 呼びかける

マイクを ON にして「ふくまろ」と呼びかけると、ふくまろが応答状態になります。



□ 会話する

ふくまろが応答状態になりましたら、ふくまろと会話してみましょう。ラジオを聴きたい時は「ラジオ聴かせて」、YouTube を再生したい時は「YouTube で〇〇見せて」、天気予報を知りたい時は「〇〇県の天気教えて」、今日の日付を知りたい時は「今日何日？」と言うとふくまろが答えてくれます。



Point

▶ 会話できる内容については「できることリスト」

(<https://azby.fmworld.net/itsumo/fukumaro/dekirukotolist.pdf>) をご覧ください。

ふくまろのホーム画面の「できることリスト」をクリックして確認することもできます。

Windows Hello

Windows 10 には、顔や指紋を使ってサインインできる Windows Hello という機能が搭載されています。Windows Hello を使うと、サインイン用のパスワードや PIN をいちいち入力する必要がなくなります。

Windows Hello を使って顔認識でサインインする

カメラの位置は「各部の名称と役割」をご覧ください。

■ Windows Hello の顔認識機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Hello の顔認識機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Hello をお使いになるには、PIN を設定しておく必要があります。
- カメラによる顔認識を設定している場合でも、パスワードや PIN の入力でサインインすることができます。また、顔認証でサインインできない場合も、同様にパスワードや PIN の入力でサインインしてください。
- Windows Hello で登録した顔情報は、パソコンにのみ保存され、インターネット上にアップロードされることはありません。
- 顔の登録および顔認識でのサインインのときに適切な顔の位置は、パソコンの正面でパソコンからの距離が約 30cm から 1m です。
カメラが顔を認識できるように、必要に応じて液晶ディスプレイの角度などを調整してください。
- Windows Hello の顔認識機能は赤外線を使用しています。次のような環境では、顔認証が正しく検出できないことがあります。
 - ・ パソコンの顔認証対応 Web カメラや顔に直接日差しが当たる場所
 - ・ 晴れた日の屋外や窓際など正しく検出するために上記の場所での使用を避け、直接日差しが当たらないようにカーテンなどで日差しを遮ってください。
また、窓際で使用したり窓に向かってパソコンを設置したりすることは避けてください。
- 赤外線を含む電球（白熱電球など）を使用している場合は、パソコンの顔認証対応 Web カメラや顔に電球の光が当たらないようにしてください。
- パソコンの顔認証対応 Web カメラの発光部を長時間見つめないでください。
- 顔の登録および顔認識時は、Web カメラ状態表示 LED が青く点灯します。
- 本装置に搭載されているカメラは顔認証に最適化されたカメラです。カメラの視野に人の顔がある場合、人の顔に対して優先的に露出補正を行います。そのため、周囲の明るさと人の顔の明るさの差が大きい場合、人の顔の露出は適正になりますが、周囲の露出は適正でない状態で撮影されることがあります。

■ 顔を登録する

Windows Hello の顔認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

- 1   (設定) ▶ 「アカウント」の順にクリックし、画面左側の「サインイン オプション」をクリックします。



Point

- ▶ PIN を設定していない場合、「PIN」の「追加」をクリックして PIN を設定してください。

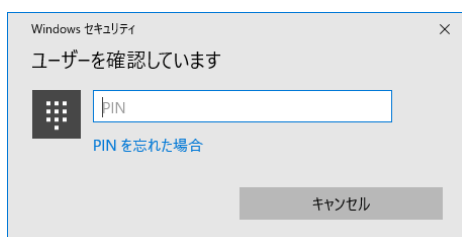
- 2 「Windows Hello 顔認証」▶ 「セットアップ」の順にクリックします。



3 「Windows Hello セットアップ」 ウィンドウで「開始する」をクリックします。



4 画面の指示に従って、PIN を入力します。

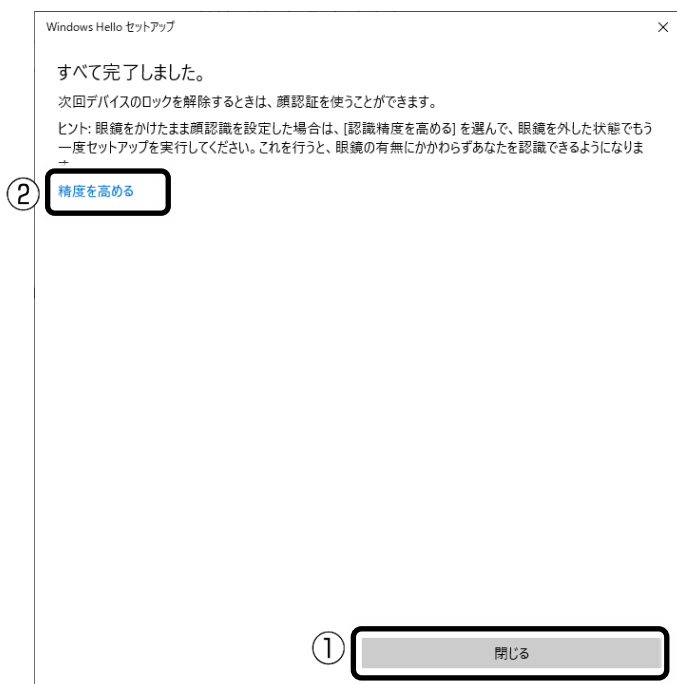


5 画面の指示に従って、顔を登録します。



6 顔の登録が完了したら、①「閉じる」をクリックします。

必要に応じて②「精度を高める」をクリックします。



Point

- ▶ 「閉じる」をクリックした後も精度を高めることができます。手順 2 の「サインインオプション」の画面で「Windows Hello の顔認証」をクリックし、「認識精度を高める」をクリックし、再度顔認識を行ってください。

■ 顔認識でサインインできるか確認する

- 1   (アカウント名)  「ロック」をクリックしてロック画面を表示し、サインインできるか確認します。

Point

- ▶ サインインできなかった場合は、画面の指示に従って、PIN または Microsoft アカウントのパスワードを入力してサインインし、顔の登録をやり直してください。

インターネットを安心してお使いいただくには

このパソコン／タブレットには、フィルタリング機能をもつ「i-フィルター」が用意されています。

青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について

インターネットの発展によって、世界中の人とメールのやり取りをしたり、個人や企業が提供しているインターネット上のサイトを活用したりすることが容易になっており、それに伴い、青少年の教育にもインターネットの利用は欠かせなく

なっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害な情報などを掲載した好ましくないサイトも存在しています。

特に、下記のようなインターネット上のサイトでは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

- アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
- 他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- 出会い系サイト・犯罪を助長するようなサイト
- 暴力残虐画像を集めたサイト
- 毒物や麻薬情報を載せたサイト

サイトの内容が青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開をやめさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開をやめさせることはできません。

有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信側で有害サイトの閲覧を制御する技術です。100%万全ではありませんが、多くの有害サイトへのアクセスを自動的に制限できる有効な手段です。特に青少年のお子様がいらっしゃるご家庭では、「フィルタリング」を活用されることをお勧めします。

なお、アプリやサービスによっては、「フィルタリング」機能を「有害サイトブロック」、「有害サイト遮断」、「Web フィルター」、「インターネット利用管理」などと表現している場合があります。あらかじめ機能をご確認のうえ、ご利用されることをお勧めします。

i-フィルター

このパソコンに用意されている「i-フィルター」は 30 日のお試し版となっています。ぜひお試しください。

初めてお使いになるときは、次の手順で初期設定を行ってください。

なお、お試し版を利用するにはメールアドレスの登録が必要です。

1 インターネットに接続します。

2  ▶「@メニュー」▶「@メニュー」の順にクリックします。

3 ①「アプリ・サービス」▶②「インターネット・メール」▶③「目的でさがす」▶④「有害サイトの閲覧を制限する」▶⑤「実行する」の順にクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

4 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

「続行するには管理者のユーザー名とパスワードを入力してください。」と表示されている場合は、画面の指示に従って管理者アカウントのユーザー名を選択し、パスワードを入力してから「はい」をクリックします。

「i-フィルター」のご紹介の画面が表示されます。

5 「「i-フィルター 6.0」をインストールする」をクリックします。

使用許諾の画面が表示されます。

この後は画面の指示に従ってインストールを進めてください。

Point

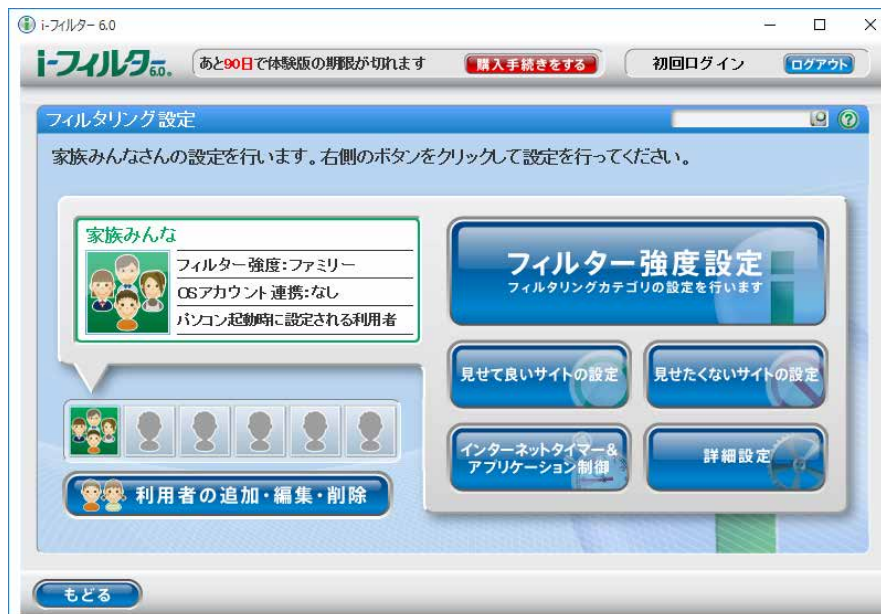
- ▶ 「すでにインストールされています。」というメッセージが表示された場合は、「i-フィルター」はインストール済みです。
「OK」▶「完了」の順にクリックして、画面を閉じてください。

6 「i-フィルター 6.0」の画面が表示されたら、インターネットに接続していることを確認して、「お申し込み」ボタンをクリックします。

この後は画面の指示に従ってメールアドレスの登録を進めてください。

登録が完了すると「i-フィルター」が利用できるようになります。

次回使うときは、通知領域に表示された  アイコンから、設定を行うことができます。



試用期間を超えてご利用になる場合は、継続利用（有償）のお手続きを行ってください。別のフィルタリングアプリをご利用になる場合は、市販のアプリをご購入のうえ、ご利用ください。

スリープ／休止状態

Windows の省電力機能を使用すると、パソコンを待機状態にしているときに消費電力を抑えることができます。ここでは、省電力機能のうち、「スリープ」と「休止状態」について説明しています。

スリープ／休止状態とは

ご購入時の設定では、一定時間パソコンを操作しないと、自動的にスリープになるように設定されています。

手動でスリープにする操作については、「取り扱い」－「電源の入れ方／切り方」－「スリープにする」および「スリープから復帰させる」をご覧ください。

■ スリープ

作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。そのため、電源プラグがコンセントから抜けると、元の状態に復旧することができません。

■ 休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。そのため電源プラグがコンセントから抜けたりしても元の状態に復旧することができます。スリープに比べると、待機状態にしたり復帰（レジューム）したりするための時間は長くなりますが、消費電力は削減されます。

重要

- ▶ 休止状態にすると働かない機能があります。
 - ・ 瞬感起動によるサインイン
 - ・ テレビの予約録画（テレビチューナー搭載機種）

□ 休止状態にする

1 (電源) ▶ 「休止状態」の順にクリックします。

ディスプレイの表示が消え休止状態になります。

Point

- ▶ 「休止状態」が表示されていない場合は、次の手順で設定を変更してください。
 1.   (設定) ▶ 「システム」の順にクリックします。
 2. 「システム」画面左側の「電源とスリープ」をクリックします。
 3. 「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。
 4. 「電源オプション」ウィンドウが表示されたら、左側にある「電源ボタンの動作の選択」をクリックします。
 5. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
 6. ウィンドウの下部にある「休止状態」の ☐ をクリックして ☒ にします。
 7. 「変更の保存」をクリックします。
 8. 「電源オプション」ウィンドウを閉じます。
- ▶ 電源ボタンを押したときに休止状態に切り替わるように設定を変更することができます (→P.20)。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰（レジューム）に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰（レジューム）しないでください。必ず、10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰（レジューム）させた後、必ず 10 秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- スリープや休止状態に移行するまでの間、マウスや USB キーボードなどの周辺機器を操作しないでください。復帰（レジューム）した後、周辺機器を正しく認識しなくなることがあります。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- スリープや休止状態、復帰（レジューム）のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- 周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、復帰（レジューム）するときに周辺機器の情報が初期化されるため、休止状態にする前の作業状態に戻らないことがあります。
- ネットワークの設定によっては、スリープ中に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスの有効期限が切れると、パソコン本体がスリープから元の状態に戻ることがあります。この場合は、IP アドレスの有効期間を延長するか、DHCP の使用を中止して固定 IP をお使いください。

- 次の場合は、自動的にスリープや休止状態になりません。
 - ・ DVD-VIDEO などの動画再生時
 - ・ テレビ機能をお使いの場合（テレビチューナー搭載機種のみ）
- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコンが何か処理をしている最中（プリンター出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ハードディスクやフラッシュメモリディスクにアクセス中
 - ・ オートラン CD-ROM/DVD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM）を使用中
 - ・ ビデオ CD や Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）、DVD-VIDEO などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
 - ・ マルチモニター機能を使用中
 - ・ デジタルテレビに表示しているとき
 - ・ マウスの操作中
 - ・ LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中／通信中

ディスプレイの電源を切る、スリープになるまでの時間を変更する

次の手順で表示する画面から、ディスプレイの電源を切るまでの時間、スリープになるまでの時間を変更できます。

この方法は簡易的な方法で、「電源オプション」ウィンドウで選択されている電源プランに対してのみ変更を加えることができます。詳細な設定変更をしたいときは「スリープ／休止状態の設定変更」（→P.19）をご覧ください。

1   （設定）▶「システム」の順にクリックします。

2 「システム」画面左側の「電源とスリープ」をクリックします。

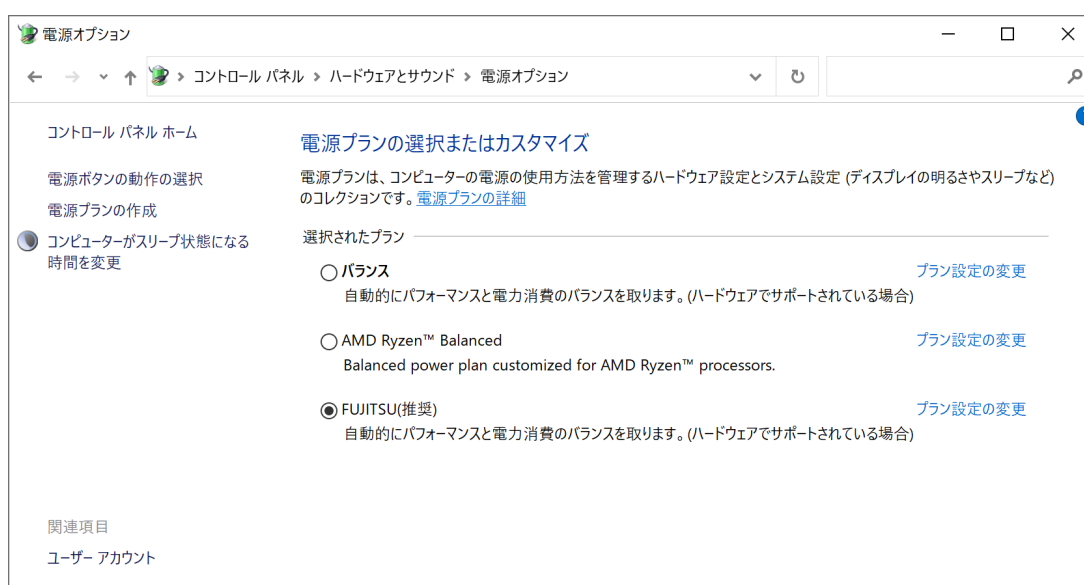
スリープ／休止状態の設定変更

ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

スリープ／休止状態などの詳細な設定変更は「電源オプション」ウィンドウで行います。

■ 「電源オプション」ウィンドウを表示する

- 1   (設定) ▶ 「システム」の順にクリックします。
- 2 「システム」画面左側の「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

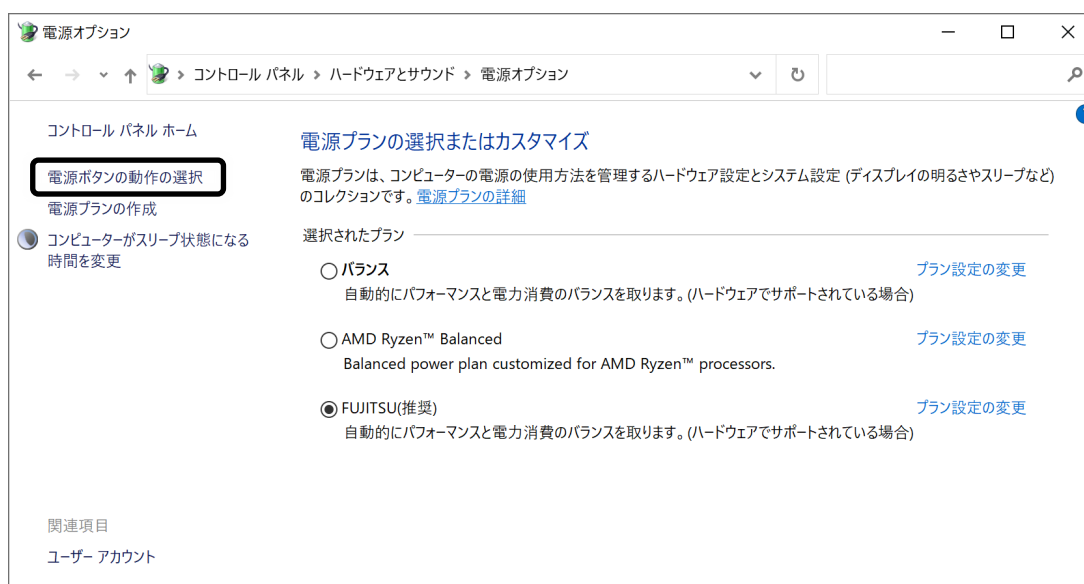
■ 電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

☐ ご購入時の設定

- 電源ボタンを押す
スリープ

☐ 設定を変更する

1 「電源オプション」ウィンドウで、「電源ボタンの動作の選択」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

2 必要に応じて電源ボタンの設定を変更します。



3 「変更の保存」をクリックします。



- ▶ パソコンがスリープから復帰（レジューム）するとき、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードや PIN を入力する必要があります。Windows Hello で顔認識を設定している場合は、顔認識でサインインできます。

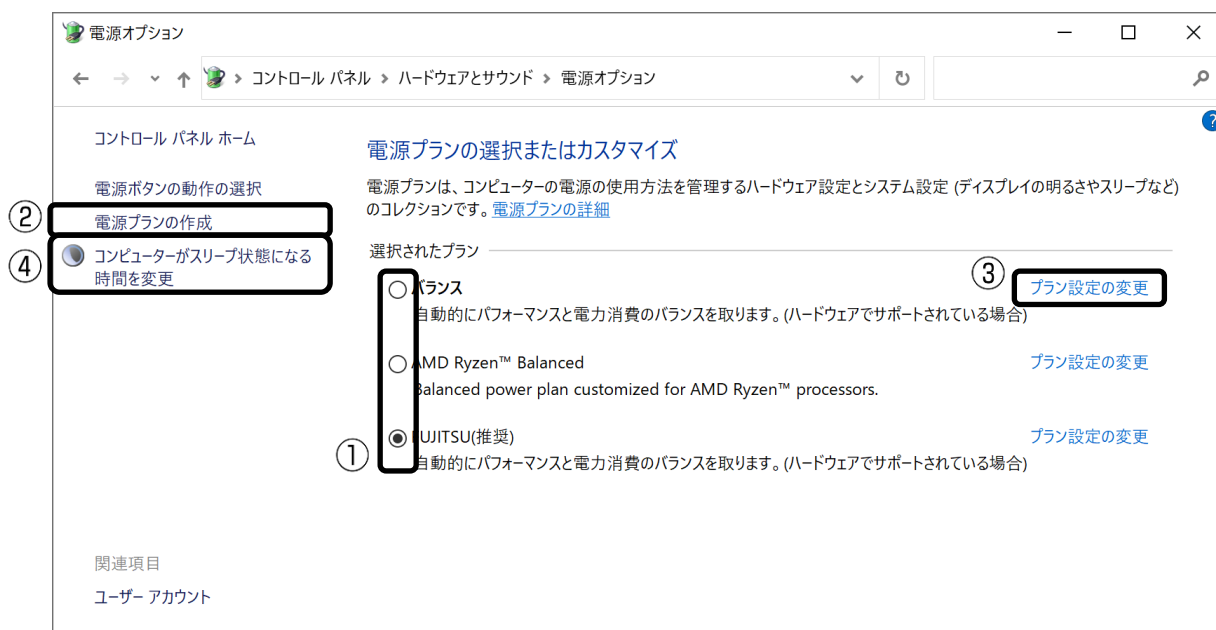
Windows Hello で顔認識を設定していない場合は、次の手順で設定変更できますが、セキュリティを高めるため、サインインを求める設定にしておくことをお勧めします。

1. ▶ （設定）▶ 「アカウント」の順にクリックします。
2. 画面左側の「サインインオプション」をクリックし、画面右側の「サインインを求める」の設定を変更します。

■ 電源プラン

このパソコンではあらかじめ次の電源プランが用意されています。ご購入時は「FUJITSU（推奨）」が選択されています。パソコンの利用状況に応じて切り替えると、消費電力を抑えることができます。

新規に電源プランを作成することもでき、プランごとにスリープになるまでの時間や詳細な設定を変更して保存することができます。



重要

- ▶ テレビチューナー搭載機種には、「DTV 録画」という電源プランがあります。次の場合に「DTV 録画」に自動で変わります。テレビ機能の動作に影響するので、設定を変更しないでお使いください。
 - ・ テレビの録画準備中、録画中
 - ・ 録画した番組をメディアに書き出し中
 - ・ テレビ番組をネットワーク経由で配信中録画準備中から録画完了まで

□ 電源プランを切り替える

- 1 「電源オプション」ウィンドウで、前ページの①お使いになる状況に適した電源プランの○をクリックして●にします。

□ 新規に電源プランを作成する

- 1 「電源オプション」ウィンドウで、前ページの②「電源プランの作成」をクリックします。
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、画面の指示に従って操作してください。

□ ディスプレイの電源を切るまでの時間、スリープになるまでの時間を変更する 電源プランごとに時間を設定できます。

- 1 「電源オプション」ウィンドウで、変更したい電源プランの前ページの③「プラン設定の変更」をクリックします。

Point

- ▶ 現在選択されている電源プランの設定変更をする場合は、前のページの画面④「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックしても、編集画面を表示できます。

2 ① をクリックして時間を変更します。



Point

- ▶ 変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。
 1. ②「このプランの既定の設定を復元」をクリックします。
 2. 「はい」をクリックします。

3 「変更の保存」をクリックします。

ディスプレイ

ディスプレイに表示できる解像度と発色数についての注意

ここでは、このパソコンで表示できる画面の解像度や発色数について説明しています。解像度とは、縦横にどれだけの点（ピクセル）を表示できるかを示すものです。解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。

重要

- ▶ このパソコンでは、次の表に書かれている解像度でお使いください。
- ▶ 次の場合は設定を変更しないでください。正しく表示されないことがあります。
 - ・ DVD-VIDEO などの動画再生時
 - ・ テレビ機能をお使いの場合（テレビチューナー搭載機種のみ）

Point

- ▶ アプリによっては、使用時の解像度が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

■ 本体液晶ディスプレイの場合

□ FH-G/E3、WF-G/E3

解像度 (ピクセル)	発色数 [注]
1024×768	約 1677 万色、 対応アプリを利用した場合、 約 10 億 6433 万色
1280×720	
1280×800	
1280×1024	
1360×768	
1366×768	
1440×900	
1600×900	
1680×1050	
1920×1080	
2560×1440	
2560×1600	
3840×2160	

注：擬似的に色を表示するディザリング機能を利用

□ FH77/E3、FH70/E3、FH60/E3、FH52/E3、WF1/E3、WF1/F1、WFB/E3

解像度 (ピクセル)	発色数 [注]
1024×768	約 1677 万色
1280×720	
1280×800	
1280×1024	
1360×768	
1366×768	
1440×900	
1600×900	
1680×1050	
1920×1080	

注：擬似的に色を表示するディザリング機能を利用

■ HDMI 出力端子に接続したディスプレイの場合

解像度（ピクセル） [注]	発色数
1024×768	約 1677 万色
1280×800	
1280×1024	
1360×768	
1440×900	
1600×900	
1600×1200	
1680×1050	
1920×1080	
1920×1200	
1920×1440	
2560×1440	
2560×1600	
3840×2160	
4096×2160	

注：お使いのディスプレイが各解像度をサポートしている必要があります。ディスプレイがサポートしていない解像度はお使いになれません。

画面の解像度の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度を変更する方法について説明しています。

重要

- ▶ 設定変更時の画面表示の乱れについて
解像度を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。

1   (設定) ▶ 「システム」▶ 画面左側の「ディスプレイ」の順にクリックします。

2 解像度を変更します。

① 「解像度」の▼をクリックし、変更したい解像度を選択します。



2 つ目の画面を表示する外部ディスプレイやデジタルテレビ接続時に表示されます。

(これ以降の画面は
機種や状況により異なります)

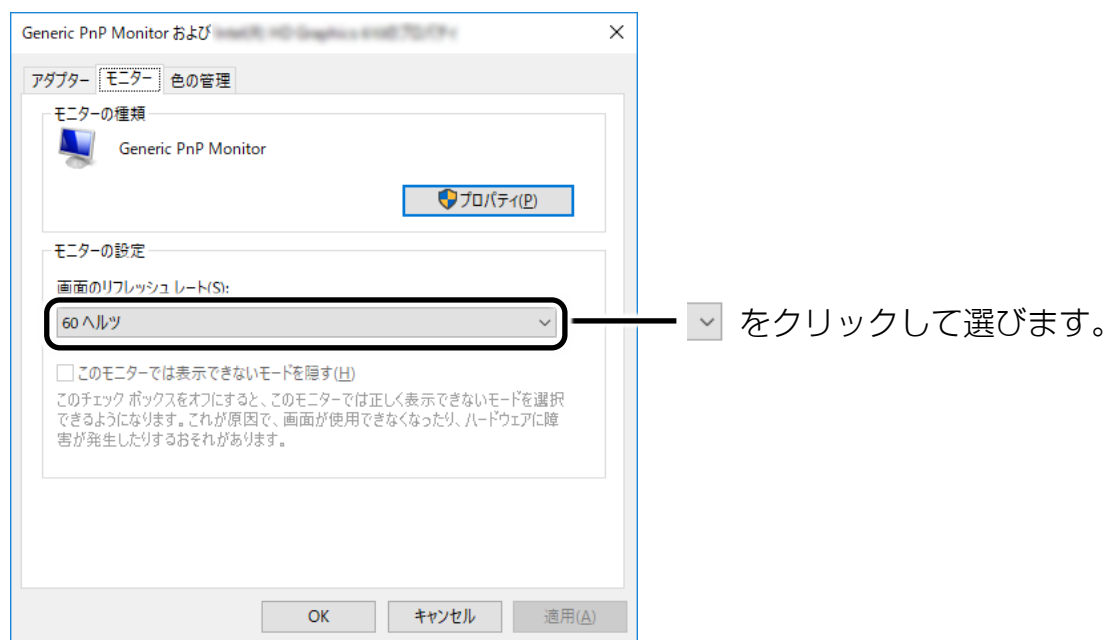
接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの解像度を変更したい場合は、②でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください（対象機種のみ）。

3 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。

■ リフレッシュレートの変更

必要に応じて変更してください。

- 1 ③「ディスプレイの詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウで「ディスプレイ n のアダプターのプロパティを表示します」をクリックします。
n には数字が入ります。
- 2 「モニター」タブをクリックします。
- 3 リフレッシュレートの ▾ をクリックし、リフレッシュレートを変更します。



- 4 「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックし、「OK」をクリックします。

画面の表示を消す

ここでは、画面の表示を消して、消費電力を低減させる方法を説明しています。このパソコンには、「おやすみディスプレイ」を利用する方法があります。

Point

- ▶ 「おやすみディスプレイ」機能は Windows の省電力機能とは異なります。Windows の省電力機能については、「スリープ／休止状態」(→P.16)をご覧ください。

■ パソコンが自動起動したときに、表示を消す（おやすみディスプレイ）

ご購入時は、パソコンが自動的に起動した場合に画面の表示が消されるように設定されています。これは、「おやすみディスプレイ」の設定が「オン」になっている状態です。

また、「おやすみディスプレイ」機能で画面の表示が消えている場合にマウスを動かすと、元の状態に戻る（「おやすみディスプレイ」が解除される）ように設定されています。

□ 「おやすみディスプレイ」の設定を変更する

「おやすみディスプレイ」を利用しない場合や、周りの振動でマウスが動いたことによって意図せずに元の状態に戻ってしまう場合は、設定を変更してください。

1   (設定) ▶ 「Extra」▶ 「PowerUtility-スケジュール機能」の順にクリックします。

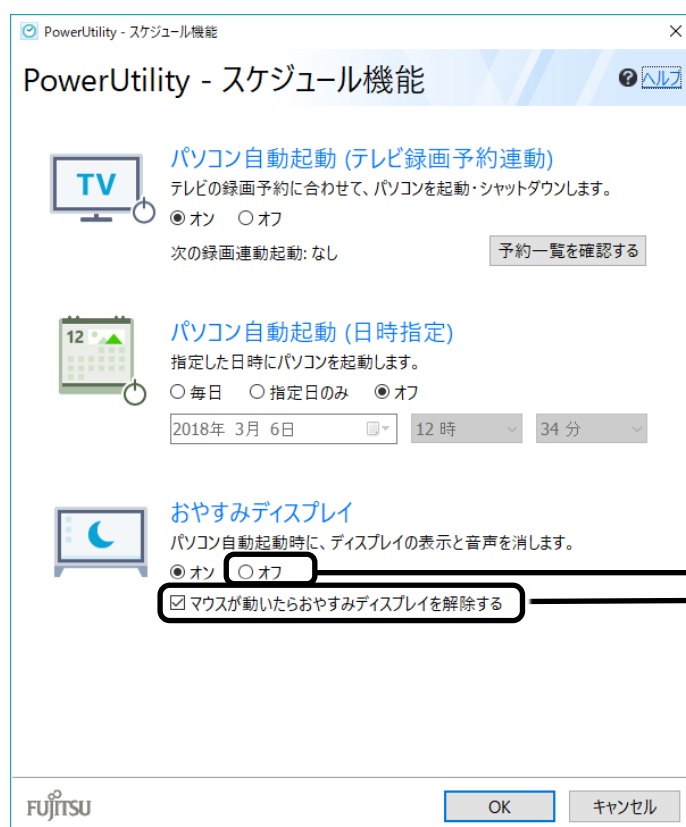
2 「PowerUtility-スケジュール機能」ウィンドウが表示されたら、設定を変更し、「OK」をクリックします。

■ 「おやすみディスプレイ」を利用しない場合

「おやすみディスプレイを行う」の①オフをクリックし、にします。

■ マウスで元の状態に戻る設定を無効にする場合

②「マウスでもおやすみディスプレイを解除する」の ☒ をクリックし、☐にします。



ご注意

画面上では、おやすみディスプレイをオンにすると音声も消されると説明していますが、このパソコンはモダンスタンバイに対応しているため音声は消されません。

■ 画面の表示を元に戻す

「おやすみディスプレイ」機能を利用して画面の表示が消えている場合に元の状態に戻すときは、次のいずれかの操作をしてください。

- キーボードのキーを押す
- マウスを操作する
- パソコン本体の電源ボタンを押す
- キーボードのパソコン電源ボタンを押す

表示するディスプレイの切り替え

ここでは、ディスプレイを 2 台以上接続して、同時表示や、マルチモニター機能を使用する方法について説明しています。

■ ディスプレイの接続

☐ 必要なものを用意する

- ディスプレイなどの映像機器
- HDMI ケーブル
- ディスプレイなどの映像機器のマニュアル

☐ ディスプレイを接続する



ディスプレイの接続／取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。

この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。

2 パソコン本体の HDMI 出力端子に、HDMI ケーブルを接続します。

「各部の名称と働き」をご覧ください。HDMI 出力端子に接続します。

コネクタと差し込み口の形状を確認して奥までしっかりと差し込みます。

3 ディスプレイに HDMI ケーブルのもう一方のコネクタを接続します。

接続方法は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4 パソコン本体の電源ケーブルをコンセントに差します。

5 ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

6 パソコン本体の電源を入れます。続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

続いて、表示するディスプレイを切り替えます。

Point

- ▶ ディスプレイを接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。必要なファイルをインストールしてください。ディスプレイに CD-ROM などが添付されていることもあります。

■ 同時表示や 1 台のみ表示にする

ここでは、接続した 2 つのディスプレイの両方に同じ画面を表示する（同時表示）方法と、表示するディスプレイを変更する方法を説明します。2 台のディスプレイを 1 つの画面として表示する（マルチモニター機能）方法については、「マルチモニター機能を使う」（→P.34）をご覧ください。

- 次のすべてで一致した解像度が表示できます。
 - ・ パソコン本体の液晶ディスプレイに表示できる解像度
「本体液晶ディスプレイの場合」（→P.24）
 - ・ 接続した外部ディスプレイに表示できる解像度
「HDMI 出力端子に接続したディスプレイの場合」（→P.25）
 - ・ 接続した外部ディスプレイがサポートしている解像度
外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

1   (設定) ▶ 「システム」▶ 画面左側の「ディスプレイ」の順にクリックします。

2 ① 「複数のディスプレイ」の  をクリックし、表示したいディスプレイを選択します。

■ 1つのディスプレイで表示する場合

「1のみ表示する」または「2のみ表示する」をクリックします。本体の液晶ディスプレイを識別するには、②「識別」をクリックしてディスプレイ上に番号を表示してください。

■ 2つのディスプレイで同時に表示する場合

「表示画面を複製する」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「ディスプレイの設定を維持しますか？」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

4 必要に応じて解像度を変更します。

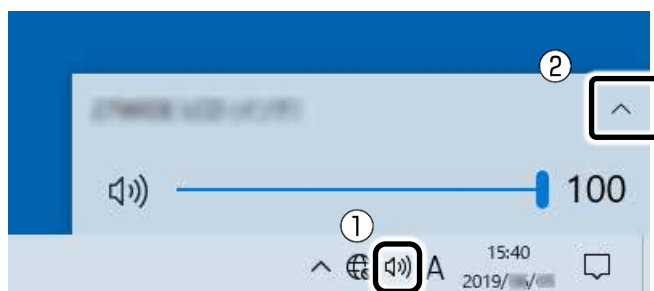
③「解像度」の ▾ をクリックし、表示された解像度をクリックします。

「ディスプレイの設定を維持しますか？」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

5 画面右上の ✕ をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

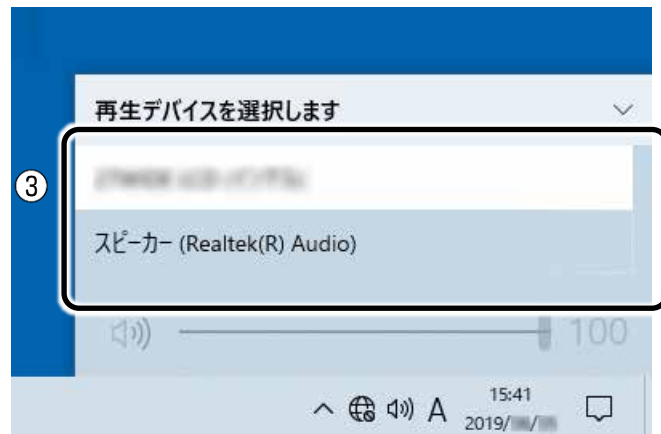
6 音声を出力する機器を選択します。

①通知領域の 🔊 をクリックし、②をクリックします。



③音声を出力したい機器をクリックします。

本体のスピーカーを使用する場合は「スピーカー（Realtek(R) Audio)」を選択します。



■ マルチモニター機能を使う

□ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる場合は、「マルチモニター機能を使う」の手順に従って操作してください。それ以外の手順では、正しく動作しないことがあります。
- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のアプリを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコン本体の液晶ディスプレイをメインディスプレイに設定してください。
- マルチモニター機能を使用中は、次の点に注意してください。
 - ・ 2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、主ディスプレイ（メインディスプレイ）と2番目のディスプレイの設定を変更しないでください。
 - ・ 2番目のディスプレイのみに表示されているアプリを起動中に、2番目のディスプレイの使用を終了しないでください。アプリおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 一部のスクリーンセーバーは、主ディスプレイ（メインディスプレイ）のみに表示されます。
- お使いのディスプレイなどに表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

1  ▶  (設定) ▶ 「システム」▶ 画面左側の「ディスプレイ」の順にクリックします。

- 2 ①「複数のディスプレイ」の  をクリックし、表示されたメニューから「表示画面を拡張する」をクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

- 3 「ディスプレイの設定を維持しますか？」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

4 ②で本体の液晶ディスプレイを選択し、③「これをメインディスプレイにする」の ☐ をクリックして ☒ にします。

このパソコンでは HDMI 出力端子に接続したディスプレイなどの映像機器がメインディスプレイに設定されます。本体液晶ディスプレイをメインディスプレイに設定しなおしてお使いください。

本体の液晶ディスプレイを識別するには、④「識別」をクリックしてディスプレイ上に番号を表示してください。

5 ②でディスプレイをドラッグし配置を設定します。

ディスプレイ間で項目を左右にドラッグして移動させたい場合はイラストを横に並べて配置し、項目を上下にドラッグして移動させたい場合はイラストを縦に並べて配置します。

なお、イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。実際にはディスプレイが横に並んでいても、イラストは上下に並べて配置できます。

6 必要に応じて解像度を変更します。

⑤「解像度」の ☐ をクリックし、表示された解像度をクリックします。

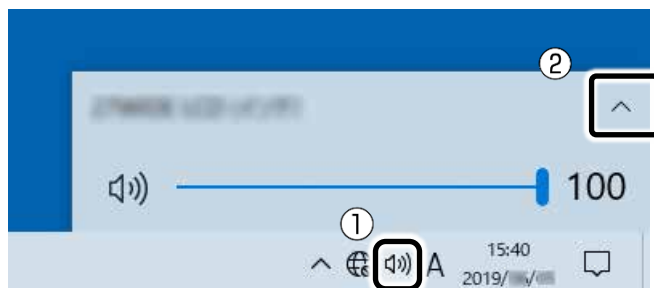
「ディスプレイの設定を維持しますか？」というメッセージが表示されたら、画面の指示に従い「変更の維持」をクリックしてください。

7 画面右上の をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

8 音声を出力する機器を選択します。

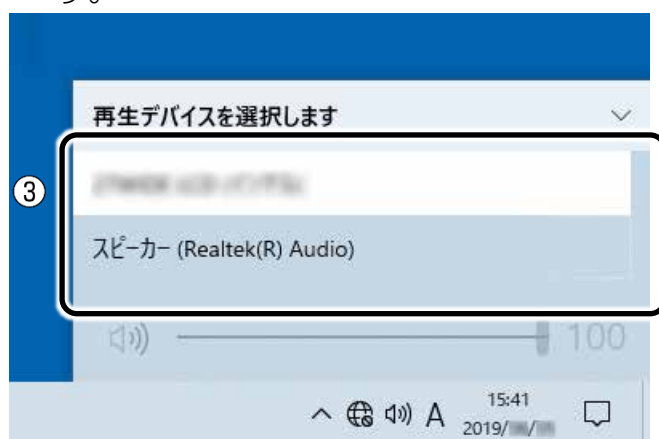
このパソコンでは HDMI 出力端子に接続したディスプレイなどの映像機器から音声出力するように設定されます。本体のスピーカーから音声出力するには設定を変更する必要があります。

①通知領域の  をクリックし、②をクリックします。



③音声を出力したい機器をクリックします。

本体のスピーカーを使用する場合は「スピーカー (Realtek(R) Audio)」を選択します。



サウンド

再生時／録音時のサウンドを調節する

このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

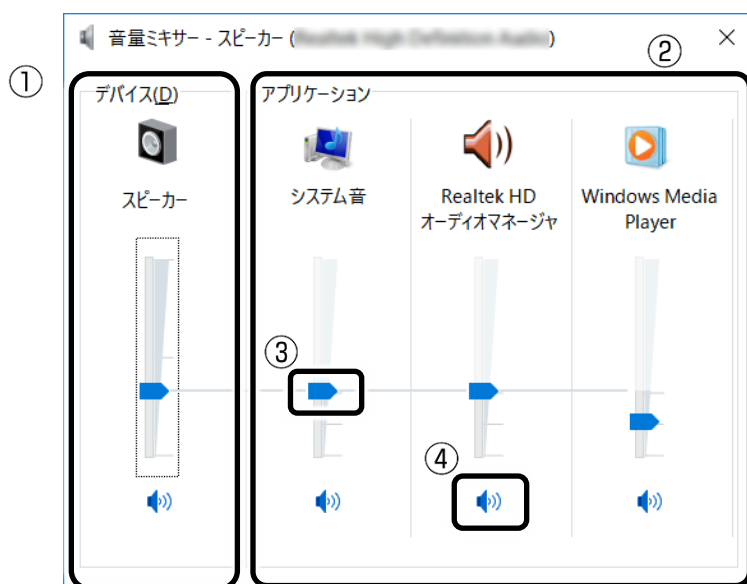
Point

- ▶ お使いの環境によっては、ヘッドホンまたはヘッドセットをご利用ください。

■ デスクトップアプリごとに音量を調節する

デスクトップアプリは「音量ミキサー」ウィンドウでアプリごとに音量を調節できます（一部のデスクトップアプリには個別に調節できないものもあります）。

- 1 音量を調節したいデスクトップアプリを起動します。
- 2 通知領域の  を右クリックし、表示されたメニューから「音量ミキサーを開く」をクリックします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの③スライダーを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

- ①このパソコンのスピーカーから出る音量です。
通知領域の  で設定した音量と同じです。
 - ・ HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイから音を出す場合は、機器の名称が表示されます。

- ②起動しているデスクトップアプリごとに音量を調節できます。
「デバイス」に設定した音量が最大値になります。
- ③下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。
- ④ここをクリックして  にすると音が消えます。もう一度クリックして  にすると元の音量に戻ります。

4 をクリックします。

「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

■ 再生や録音する機器ごとに音量を調節する

□ 再生や録音する機器を選択する

このパソコンで音声を再生したり録音したりするときに、音声の出力先を選択することができます。

音声出力できるデジタルテレビやディスプレイを接続したときも、次の手順で再生する機器を選択できます。

- 1 通知領域の  を右クリックし、表示されたメニューから「サウンドの設定を開く」をクリックします。
- 2 「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をクリックします。
- 3 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックして機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。



選択した機器にチェックマークが付きます。

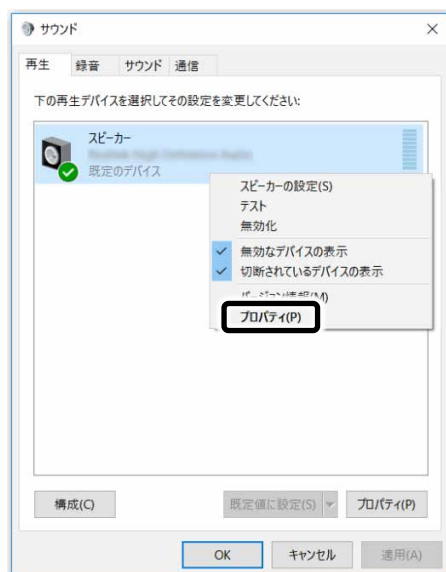
4 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

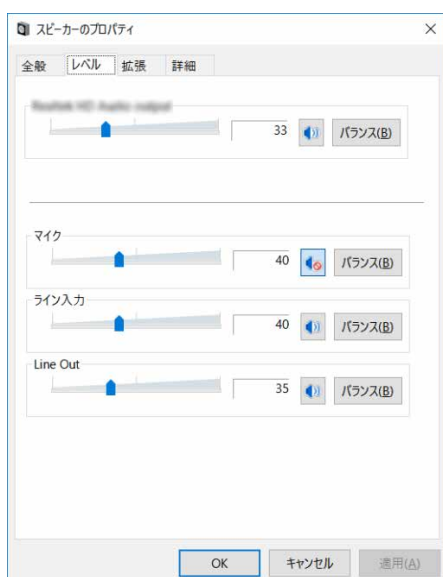
□ 再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

- 1 通知領域の  を右クリックし、表示されたメニューから「サウンドの設定を開く」をクリックします。
- 2 「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をクリックします。
- 3 「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。



- 4 「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されたら、「レベル」タブをクリックします。
- 5 音量を調節したい項目で、スライダーを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



- ・  : スピーカーから音が聞こえます。
- ・  : スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- ・ 「バランス」: 左右の音量のバランスを調節できます。

6 「OK」をクリックします。

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

7 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

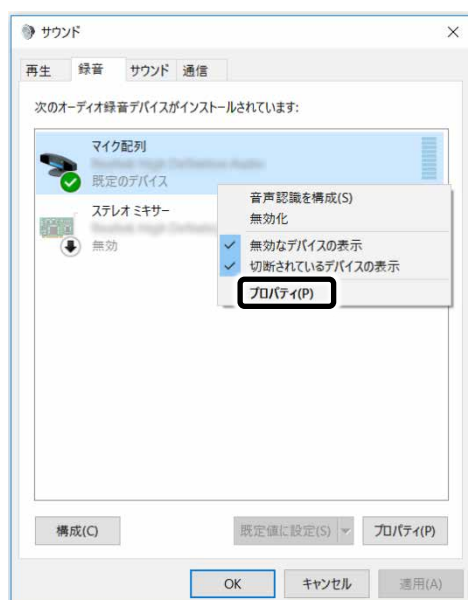
□ 録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてマイクの音量を調節する方法を説明します。

1 通知領域の を右クリックし、表示されたメニューから「サウンドの設定を開く」をクリックします。

2 「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をクリックします。

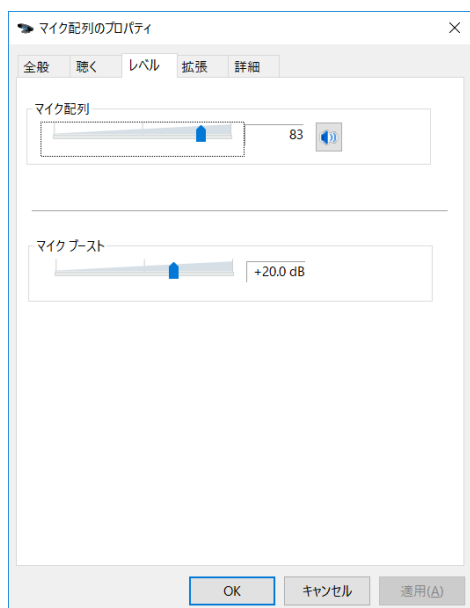
3 「録音」タブの「マイク配列」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。



「マイク配列のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「マイク配列のプロパティ」ウィンドウが表示されたら、「レベル」タブをクリックします。

5 音量を調節したい項目で、スライダーを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。



- ・  : マイクで録音します。
- ・  : マイクで録音しないようにします。

6 「OK」をクリックします。

「マイク配列のプロパティ」ウィンドウが閉じます。

7 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

■ スピーカーの音質を調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるステレオ感や、重厚感のある低音を実現します。

重要

- ▶ Dirac Audio の音質の調節は、内蔵スピーカーが対象となります。
- 「FH-G/E3、WF-G/E3、FH77/E3、FH70/E3、FH60/E3、WF1/E3、WF1/F1（インテル® Core™ i7-1165G7 プロセッサ搭載の場合）、WFB/E3」（→P.43）
- 「FH52/E3、WF1/F1（インテル® Core™ i3-1115G4 プロセッサ、インテル® Celeron® 6305 プロセッサ搭載の場合）」（→P.45）

- FH-G/E3、WF-G/E3、FH77/E3、FH70/E3、FH60/E3、WF1/E3、WF1/F1（インテル® Core™ i7-1165G7 プロセッサ搭載の場合）、WFB/E3

1 ▶ 「Dirac Audio」の順にクリックします。

起動時は「音楽」モードになっています。音楽を聴くのに最適な設定です。

「映画」、「ボイス」、「カスタム」のモードに切り替えることができます。



- ①Dirac Audio 機能のオン／オフを切り替えます。オフの状態では青色です。
- ②「音楽」モードを選択します。選択時は青色になります。
- ③「映画」モードを選択します。選択時は青色になります。
- ④「ボイス」モードを選択します。選択時は青色になります。
- ⑤「カスタム」モードを選択します。選択時は青色になります。

■ 「カスタム」モード

自分の好みの音質を設定できます。



- ① クリックすると、初期値（②の周波数設定が全て"0"の状態）に戻ります。
- ② お好みにより各周波数の再生レベルを増減できます。（周波数は固定です。）
白丸を上下に移動させ、お好みに調整してください。
- ③ クリックしオンにすると、音の広がりが増加します。ソースによっては、画面の外側から音が聞こえてくる場合もあります。お好みでオン／オフしてください。選択時は青色になります。
- ④ クリックしオンにすると、バックグラウンドから聞こえる小さな音や囁くような声を大きくし聞こえやすくします。一方で、元々大きな音はそのままに再生します。全体としては、音量が大きくなったように感じます。お好みでオン／オフしてください。選択時は青色になります。
- ⑤ クリックしオンにすると、ベースをクリックして有効にすると、低域の音が強調されます。低音が不足しているように感じるときは、お好みでオン／オフしてください。選択時は青色になります。

- FH52/E3、WF1/F1 (インテル® Core™ i3-1115G4 プロセッサー、インテル® Celeron® 6305 プロセッサー搭載の場合)

1 ▶ 「Dirac Audio」の順にクリックします。

起動時は「エンタメ」モードになっています。音楽を聴くのに最適な設定です。

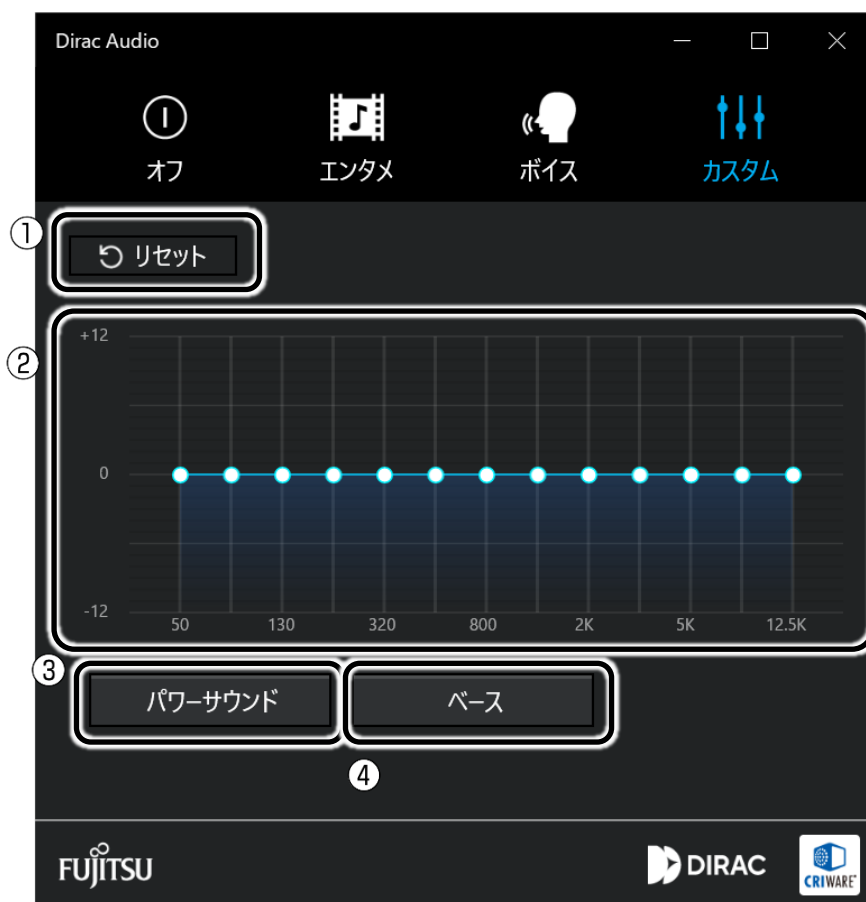
「ボイス」、「カスタム」のモードに切り替えることができます。



- ① Dirac Audio 機能のオン／オフを切り替えます。オフの状態では青色です。
- ② 「エンタメ」モードを選択します。選択時は青色になります。
- ③ 「ボイス」モードを選択します。選択時は青色になります。
- ④ 「カスタム」モードを選択します。選択時は青色になります。

■ 「カスタム」モード

自分の好みの音質を設定できます。



- ①クリックすると、初期値（②の周波数設定が全て"0"の状態）に戻ります。
- ②お好みにより各周波数の再生レベルを増減できます。（周波数は固定です。）
白丸を上下に移動させ、お好みに調整してください。
- ③クリックしオンにすると、バックグラウンドから聞こえる小さな音や囁くような声を大きくし聞こえやすくします。一方で、元々大きな音はそのままに再生します。全体としては、音量が大きくなったように感じます。お好みでオン／オフしてください。選択時は青色になります。
- ④クリックしオンにすると、ベースをクリックして有効にすると、低域の音が強調されます。低音が不足しているように感じるときは、お好みでオン／オフしてください。選択時は青色になります。

兼用端子の機能切り替え

お使いの機種に搭載されている兼用端子は、複数の機能を兼用しています。必要に応じて機能の切り替えを行ってください。

オーディオの入出力端子の種類と場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。

ご購入時の端子は次のように機能します。

- マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子

設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

- ▶ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセットに機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

1 機能を切り替えたい端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。
機器を接続していないときは、切り替えられません。

2  ▶ 「Realtek Audio Console」の順にクリックします。

3 「Realtek Audio Console」ウィンドウが表示されたら、次のように操作します。



(機種や状況により、表示される項目は異なります。)

① 「デバイス詳細設定」をクリックします。

②  をクリックし、表示されたメニューから使用したいデバイスを選択します。

通信

重要

- ▶ インターネットに接続すると、コンピューターウィルスや不正アクセスなどさまざまな脅威にさらされます。必ずセキュリティ対策をしてください。
新たな脅威を防いでパソコンを安全に使うため、パソコンを最新の状態にアップデートしてください。またセキュリティソフトも最新の状態にしてお使いください。

有線 LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」（→P.51）をご覧ください。

■ 必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

- ネットワーク機器
ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。
 - ・ダイヤルアップルーター
 - ・ブロードバンドルーター
 - ・ブロードバンドモデム
 - ・ハブ
- LAN ケーブル
ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧ください、必要なものをご用意ください。
- ネットワーク機器のマニュアル
お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

■ LAN ケーブルを接続する

警告



一般禁止

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。

注意



感電注意

LAN コネクタに指などを入れないでください。

感電の原因となることがあります。

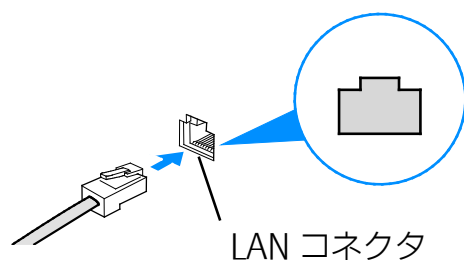


一般指示

LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。

接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

- 1 LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。



LAN ケーブルをコネクタの向きに合わせてしっかり差し込みます。

Point

- ▶ スリープ／休止状態の解除をお勧めします。
LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スリープ／休止状態の設定変更」（→P.19）をご覧ください、自動的にスリープにしない設定に変更してください。
- ▶ LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

■ LAN を利用して、別のパソコンから電源を制御する

ここでは、LAN による電源制御機能（Wakeup on LAN 機能）を有効にするための設定方法を説明しています。

LAN による電源制御機能を有効にすると、ネットワークでつながった別のパソコンから、このパソコンの電源を入れることができるようになります。

- 1 BIOS セットアップを起動します（→ P.72）。
- 2  または  で、「電源管理」または「Power」メニューを選択します。
- 3  または  で、「LAN によるウェイクアップ」または「Wake up on LAN」を選択します。
- 4 【Space】キーまたは  を押して、「使用する」または「Enabled」にします。
- 5  を押します。
- 6 設定を保存して BIOS セットアップを終了します（→ P.74）。
- 7 パソコンを起動します。

無線 LAN

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、『取扱説明書<スタートガイド>』をご覧ください。

■ 無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□ 無線 LAN について

- このパソコンの無線設備は次の表示の 2.4GHz 帯を使用しています。



この無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DSSS 変調方式および OFDM 変調方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。

- このパソコンの使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - このパソコンを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、このパソコンから移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - その他、このパソコンから移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書<スタートガイド>』の「お問い合わせ窓口のご紹介」をご覧ください。

- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠では見通し 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠では見通し 25m 以内、IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠、IEEE 802.11ax 準拠では見通し 50m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の無線 LAN の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。

- ・ 電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になりますが、W52、W53 のチャンネルは屋外でご利用になりません。このパソコンに内蔵の無線 LAN を 5GHz 帯でご利用になる場合、特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、屋外ではご利用になりません。5GHz 帯について詳しくは「5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類」（→P.53）をご覧ください。
- ・ 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

□ 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンやタブレットなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- ・ メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。

しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□ 5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類

5GHz 帯を利用した無線 LAN には、W52、W53、W56 という 3 種類のチャンネル（周波数帯）があります。これは、2007 年 1 月 31 日および 2005 年 5 月 16 日に総務省により発表された「電波法施行規則の一部を改正する省令」により、5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の変更と、新チャンネルの追加が行われたためです。

IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax 準拠の無線 LAN を搭載した機種では、5GHz の周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- ・ W52 : 36(5,180MHz)/40(5,200MHz)/44(5,220MHz)/48(5,240MHz)
- ・ W53 : 52(5,260MHz)/56(5,280MHz)/60(5,300MHz)/64(5,320MHz)
- ・ W56 : 100(5,500MHz)/104(5,520MHz)/108(5,540MHz)/112(5,560MHz)
/116(5,580MHz)/120(5,600MHz)/124(5,620MHz)/128(5,640MHz)
/132(5,660MHz)/136(5,680MHz)/140(5,700MHz)/144(5,720MHz)

5GHz 帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線 LAN 製品とのみ通信が可能です。

アドホック通信では 5GHz 帯を使用できません。



- ▶ IEEE 802.11n、IEEE802.11ax では、2.4GHz/5GHz 両方の周波数帯のチャンネルを使用します。

□ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記の場合です。
 - ・ 他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用

- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について各団体などへ問い合わせをしてください。

□ 電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。

□ 無線 LAN による通信を行うための注意

- このパソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
無線 LAN アンテナの場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・ このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・ 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・ 経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。
不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。
- 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から 3m 以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

□ 良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線 LAN の種類 [注]	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11a 準拠	見通し 15m 以内
IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠	見通し 25m 以内
IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11ax 準拠	見通し 50m 以内

注 お使いの機種により搭載されていない種類もあります。

ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかつたり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線 LAN は、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz 帯）を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができます。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切るか、電波を停止する。
Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください、電源を切るか、電波を停止してください（単独で電源を切れないものを除く）。
 - ・ 無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- 5GHz 帯チャンネルの W53（52～64ch）、W56（100～144ch）では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

■ 無線 LAN の仕様

項目	仕様 [注 1]	
ネットワークの種類	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠、IEEE 802.11ax 準拠（5GHz 帯のチャンネルは W52/W53/W56 です） （Wi-Fi®準拠）（Wi-Fi CERTIFIED 6™準拠） [注 2]	
転送レート	IEEE 802.11b 準拠	11～1Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11a/g 準拠	54～6Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11n 準拠	300～6Mbps（自動切り替え、HT20/40 対応） [注 3] [注 4]
	IEEE 802.11ac 準拠	1733～6Mbps（自動切り替え、VHT20/40/80/160 対応） [注 5] [注 6]
	IEEE 802.11ax 準拠	574～6Mbps（2.4GHz 帯）（自動切り替え、H/E20/40 対応） 2402～6Mbps（5GHz 帯）（自動切り替え、HE20/40/80/160 対応） [注 7] [注 8]
使用周波数	2,400MHz～2,483.5MHz、5,150MHz～5,340MHz、5,460MHz～5,760MHz	
チャンネル	IEEE 802.11b/g 準拠	1～13ch、
	IEEE 802.11a/ac 準拠	W52（36/40/44/48ch） W53（52/56/60/64ch） W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
	IEEE 802.11n/ax 準拠	2.4GHz モード：1～13ch 5GHz モード：W52（36/40/44/48ch） W53（52/56/60/64ch） W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
セキュリティ [注 10]	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット） [注 9] WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP） WPA3-パーソナル（WPA3-SAE）（AES）	

注 1 アドホック通信には対応していません。

注 2 Wi-Fi®準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 3 IEEE 802.11n では HT20/40 に対応しています。HT40 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HT40 に対応している必要があります。

- 注 4 IEEE 802.11n を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。
- 注 5 IEEE 802.11ac では VHT20/40/80/160 に対応しています。VHT160 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも VHT160 に対応している必要があります。
- 注 6 IEEE 802.11ac を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、VHT40/80/160 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに VHT40/80/160 の機能を無効にしてください。
- 注 7 IEEE 802.11ax では HE20/40/80/160 に対応しています。HE160 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HE160 に対応している必要があります。
- 注 8 IEEE 802.11ax を使用するときの無線 LAN アクセスポイントの設定で、HE40/80/160 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HE40/80/160 の機能を無効にしてください。
- 注 9 WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット/104 ビットです。
- 注 10 IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11ax で接続するためには、パスフレーズ(PSK)を AES に設定する必要があります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンやタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

重要

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになる場合は、セキュリティの設定をすることをお勧めします。セキュリティの設定をしないと、通信内容を傍受されたり、ネットワークに侵入されたりする危険があります。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー対応機器を接続するためには、「Bluetooth デバイスの管理」を使用します。

- 1    (設定) ▶ 「デバイス」の順にクリックし、「デバイス」画面左側の「Bluetooth とその他のデバイス」をクリックします。

Point

- ▶ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもあわせてご覧ください。それらのマニュアルに設定方法が記載されている場合は、そちらの手順に従ってしてください。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーの主な特長は次のとおりです。なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

規格：Bluetooth v5.0 準拠 [注 1]

出力：Class1

最大通信速度：2.1Mbps [注 2]

与干渉距離：80m

注 1：これ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。

注 2：実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■ 必要なものを用意する

● Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。お使いのパソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの規格に対応したものをご用意ください。なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

- ・ キーボード
- ・ マウス
- ・ プリンター
- ・ ヘッドセット
- ・ 携帯電話

● Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル

お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

▶ ペ어링コード（PIN またはパスコード）について

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペ어링）設定をするときには、機器によっては「ペ어링コード（PIN またはパスコード）」が必要になる場合があります。

「ペ어링コード（PIN またはパスコード）」については、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。

▶ プロファイルについて

Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。

このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルは次のとおりです。

- ・ HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HFP、HOGP

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーについて

- このパソコンの無線設備は次の表示の 2.4GHz 帯を使用しています。



この無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。変調方式として FHSS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。

- このパソコンの使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - このパソコンを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、このパソコンから移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - その他、このパソコンから移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し 10m 以内です。ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンやタブレットとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。

● 不正に使用される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまうおそれがあります。

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンやタブレットに内蔵されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンやタブレットがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンやタブレットは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンやタブレットに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

□ Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を行うための注意

- このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。

このパソコンの使用時、特に Bluetooth ワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。また、パソコン本体を設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、「各部の名称と働き」をご覧ください。

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し 10m 以内です。
ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、アプリ、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかつたり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーは IEEE 802.11b、IEEE 802.11g や IEEE 802.11n の 2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンやタブレットなどとの通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。
- 無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができます。
 - ・ 無線 LAN 機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ 無線 LAN 機器の電源を切る。
 - ・ 無線 LAN 機器の電波を停止する。
 - ・ 無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- このパソコンに USB アダプタ型などの他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

□ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
 - ・ 他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

□ 電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

□ 干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・ パソコン本体と受信機の距離を離す
 - ・ 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・ 経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。
不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

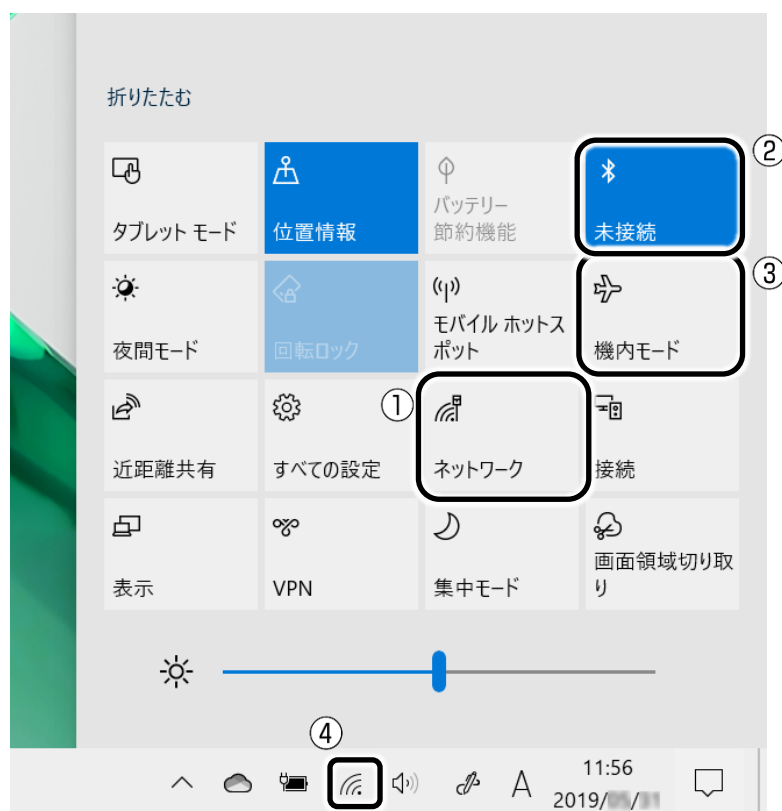
無線通信機能の電波を発信／停止する

通知領域の  をクリックします。

2 「アクションセンター」が表示されたら、発信／停止したい機能をクリックします。

1 列しか機能が表示されていないときは、「展開」をクリックするとすべての機能が表示されます。

「折りたたむ」をクリックすると 1 列のみ表示になります。



(画面は機種や状況により異なります)

- ①無線 LAN を発信／停止したいときにクリックすると、無線 LAN の設定画面が表示されます。④をクリックしても同じ画面が表示できます。
- ②Bluetooth を発信／停止したいときにクリックします。停止されているときはグレーになり、発信されているときはアクセントカラーになります。
- ③クリックすると機内モードのオン／オフを切り替えられます。②も連動して発信／停止が切り替わります。オンのときはアクセントカラーになります。

Point

- ▶ アクセントカラーは、 ▶  (設定) ▶ 「個人用設定」の順にクリックし、画面左側の「色」をクリックすると確認や変更ができます。

アプリ

このパソコンには、あらかじめたくさんのアプリがインストールされています。Windows 10 には、Windows ユニバーサル アプリと、デスクトップアプリの 2 種類があります。

一度削除したアプリをもう一度使いたいときや、アプリの動作がおかしくなったとき、アプリをインストールし直すことができます。

ここではドライバーについても説明しています。

インストール

インストール方法はお使いになるアプリにより異なります。

ご購入時にインストールされていたアプリで、ストアで提供されていないものは、「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」(→P.67) からインストールできます。

■ Windows ユニバーサル アプリ

Windows 8 以降の Windows で動作する新しいアプリです。ストアからインストールします。ストアの利用には生年月日などの情報を登録した Microsoft アカウントでサインインする必要があります。

Point

- ▶ ご購入時にインストールされているアプリは、ストアでは有償アプリとして提供されているものもあります。その場合は、「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」(→P.67) からインストールしてください。無償でインストールできます。
- ▶ Microsoft アカウントに生年月日などの情報が登録されていない場合、ストアを使い始めるときに登録します。登録を求める画面が表示されたら、指示に従って登録してください。

1  ▶ 「Microsoft Store」の順にクリックします。

2 インストールしたいアプリが画面に表示されていればクリックします。

ない場合は画面右上の  をクリックして検索したいアプリの名前を入力して検索してください。

アプリは画面下側に隠れている場合があります。画面を上スクロールしてください。

3 「入手」をクリックします。

□ 更新プログラム

インターネットに接続していると、インストール済の Windows ユニバーサル アプリが最新のバージョンでなかった場合、自動的に更新されます。

手動で更新したい場合は、次の手順で自動更新を無効にしてください。

1 「ストア」画面右上の  をクリックし、表示されたメニューから「設定」をクリックします。

2 「アプリ更新」の「アプリを自動的に更新」の  (オン) をクリックして  (オフ) にします。

■ デスクトップアプリ

Windows 7、Windows 8.1 で使用していたものがほとんどそのまま使用できます。

ご購入時にインストールされていたアプリは、「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」(→P.67) からインストールできます。

□ デスクトップアプリをインストールするうえでの注意

- デスクトップアプリをインストールする前には、必ずアプリのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する
- インストールし直す場合は、元のアプリを削除する
- 管理者アカウントでサインインする

管理者アカウントでサインインしてください。ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。

1.  ▶ 「Windows システムツール」 ▶ 「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. 「ユーザーアカウント」 ▶ 「ユーザーアカウント」の順にクリックします。
「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
3. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。
「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。

● 起動しているデスクトップアプリをすべて終了する

他のアプリが起動していると、エラーが発生する場合があります。アプリの削除をする前に、次の作業を行ってください。

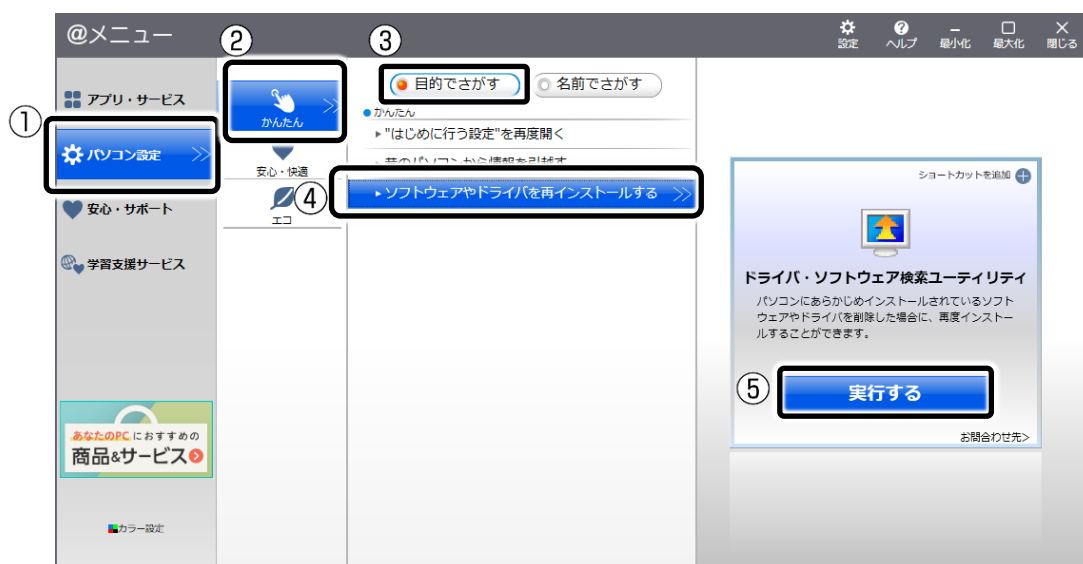
- ・ 起動しているアプリをすべて終了する
- ・ タスクバーに常駐するタイプのアプリをすべて終了する
- ・ スクリーンセーバーを「なし」に設定する
 1. デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されたメニューから「個人用設定」をクリックします。
 2. 画面左側の「ロック画面」 ▶ 画面右側下の「スクリーンセーバー設定」の順にクリックします。
 3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をクリックします。

□ ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ

データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、アプリに添付のマニュアルなどを必ずご確認くださいのうえ、手順に従ってインストールしてください。

1  ▶ 「@メニュー」 ▶ 「@メニュー」の順にクリックします。

2 ①「パソコン設定」▶②「かんたん」▶③「目的でさがす」▶④「ソフトウェアやドライバーを再インストールする」▶⑤「実行する」の順にクリックします。



(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

3 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

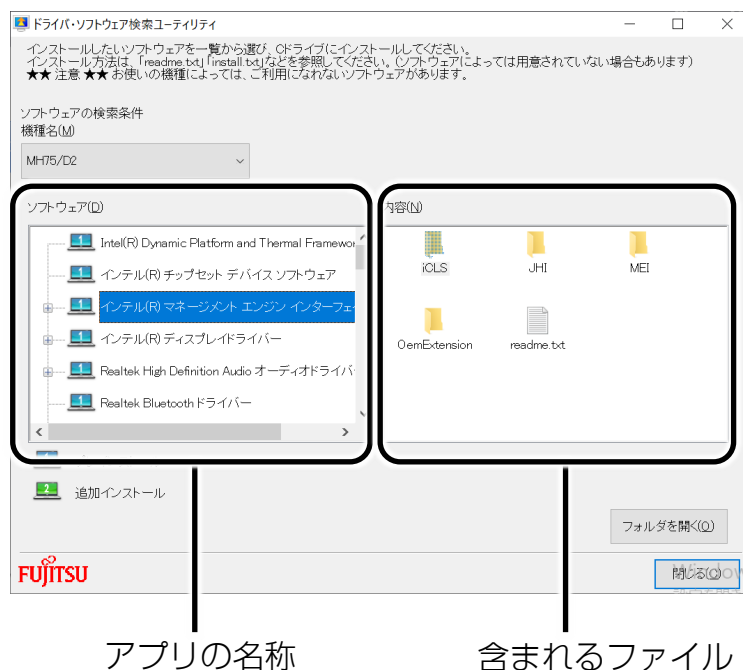
4 「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」ウィンドウが表示されたら、「機種名」欄の右側の  をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

Point

▶ WF1/F1 をお使いの場合、機種名は「WF1/E3」をクリックしてください。

5 「ソフトウェア一覧」からインストールするアプリの名称をクリックします。

アプリの名称をクリックすると、アプリに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



6 それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認し、インストールします。

Point

- ▶ 「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」を再インストールする方法は、サポートページ (<https://azby.fmworld.net/support/>) の Q&A ナンバー「8711-0449」をご覧ください。

■ 「Office」をインストールし直す

「Office」搭載機種のみ

「Office」搭載機種をお使いの方で、「Office」のみインストールし直したい場合は、マイクロソフト社のホームページからダウンロードしてインストールしてください。インストール方法については次のホームページをご覧ください。

<http://www.office.com/jppipcsetup/>

アンインストール

Windows ユニバーサル アプリ、デスクトップアプリともに、「アプリと機能」のアンインストール機能でアンインストールできます。

アンインストールした Windows ユニバーサル アプリはストアから再インストールすることができます。

■ 「アプリと機能」からアンインストールする

□ デスクトップアプリをアンインストールするうえでの注意

● デスクトップアプリをアンインストールする前には、必ずアプリのマニュアルなどを読んで、アンインストールの方法を確認する

一部のデスクトップアプリには、アンインストール機能が用意されているものなどもあります。その場合は「アプリと機能」を使わず、マニュアルまたはヘルプに従ってアンインストールしてください。

● 管理者アカウントでサインインする

ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はアプリの削除ができません。ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。

1.  ▶ 「Windows システムツール」 ▶ 「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. 「ユーザーアカウント」 ▶ 「ユーザーアカウント」の順にクリックします。
「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
3. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。
「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。

● 起動しているデスクトップアプリをすべて終了する

他のアプリが起動していると、エラーが発生する場合があります。アプリの削除をする前に、次の作業を行ってください。

- ・ 起動しているアプリをすべて終了する
 - ・ タスクバーに常駐するタイプのアプリをすべて終了する
 - ・ スクリーンセーバーを「なし」に設定する
1. デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されたメニューから「個人用設定」をクリックします。
 2. 画面左側の「ロック画面」 ▶ 画面右側下の「スクリーンセーバー設定」の順にクリックします。
 3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をクリックします。

● 共有ファイルは削除しない

アプリの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。

共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のデスクトップアプリが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

□ アンインストール方法

- 1  を右クリックし、「アプリと機能」をクリックします。
- 2 一覧から削除したい項目をクリックします。
- 3 「アンインストール」をクリックし、この後は画面の指示に従ってアプリを削除します。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。



- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ドライバー

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないうち、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

■ ドライバーのアップデート

- 各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものより新しいバージョンが、サポートページ (<https://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」で公開されている場合があります。サポートページ (<https://azby.fmworld.net/support/>) の「機種別サポート情報・ダウンロード」に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。

Point

- ▶ 「富士通アドバイザー」でドライバーが最新のものになっているか確認できます。「アップデート情報」の「更新する」をクリックしてください。最新のドライバーでない場合は、画面の指示に従って更新してください。「富士通アドバイザー」について詳しくは  『取扱説明書<スタートガイド>』の「使い始める」をご覧ください。

■ ドライバーの削除、再インストール手順

ご購入時にインストールされているドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。ドライバーの格納されているフォルダーは、「ドライバ・ソフトウェア検索ユーティリティ」(→ P.67) でご確認ください。

Point

- ▶ プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

BIOS の設定

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくか、「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)を使って本書をご覧くださいことをお勧めします。「富士通アドバイザー」(スマートフォン版)について詳しくは  『取扱説明書<スタートガイド>』の「使い始める」をご覧ください。

BIOS セットアップの操作

■ BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定(変更)する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード(暗証番号)を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

BIOS セットアップの操作は、キーボードで操作します(タッチパネル搭載機種でもタッチでは操作できません)。

■ BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、完全に電源が切れた状態から操作を始めてください(「取り扱い」－「Windows をスタートする／終了する」－「パソコンの電源を完全に切る」)。

Point

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待ってから、パソコンの電源を切り、もう一度手順 1 からやり直してください。

1 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

2 キーボードの  を押します。

3 起動メニューが表示されたら、 を押し、「BIOS セットアップ」を選択して、 を押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます(→ P.73)。

■ BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

カーソル

設定する項目に合わせます。

メニューバー

メニューの名称が表示されます。



項目ヘルプ

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド

各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

■ 設定を変更する

設定の変更はキーボードで行います。

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。BIOS セットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

1 または でカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 または でカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。

項目名にカーソルを移動して  を押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは  を押します。

3 (Space) キーまたは を押して、選択している項目の設定値を変更します。

項目の中には、数値を入力するものもあります。

画面の右に、各設定値の説明が表示されます。参考にしてください。

さらに他の項目の設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。

4 設定を保存して終了します。

Point

- ▶ 設定時によく使用するキーは、次のとおりです。

- ・  、 

設定する項目にカーソルを移動します。

- ・  、 

メニューを切り替えます。

- ・ 

「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。

設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。

- ・  (Space) キー

キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。

 を押すと、この他に使用できるキーの案内が画面に表示されます。

■ BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。

次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 **[Esc]**を押します。

「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、**[Esc]**を2~3回押してください。

2 次のいずれかの操作を行います。

■ 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、再起動する場合

1. **[↓]**または**[↑]**で、「変更を保存して終了する(再起動)」を選択し、**[Enter]**を押します。
 2. **[←]**または**[→]**で、「はい」を選択し、**[Enter]**を押します。
- BIOS セットアップが終了します。

■ 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、電源を切る場合

1. **[↓]**または**[↑]**で、「変更を保存して終了する(電源 OFF)」を選択し、**[Enter]**を押します。
 2. **[←]**または**[→]**で、「はい」を選択し、**[Enter]**を押します。
- BIOS セットアップが終了します。

■ 設定を変更しないで終了する場合

1. **[↓]**または**[↑]**で、「変更を保存せずに終了する(起動)」を選択し、**[Enter]**を押します。
 2. **[←]**または**[→]**で、「いいえ」を選択し、**[Enter]**を押します。
- BIOS セットアップが終了します。

■ BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 **[Esc]**を押します。

「終了」メニューが表示されます。

3 **[↓]**または**[↑]**で「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]**を押します。

確認のメッセージが表示されます。

4 **[←]**または**[→]**で「はい」を選択し、**[Enter]**を押します。

BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。

5 **[↓]**または**[↑]**を押して「変更を保存して終了する(電源 OFF)」を選択し、**[Enter]**を押します。

確認のメッセージが表示されます。

6 **[←]**または**[→]**で「はい」を選択し、**[Enter]**を押します。

読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

■ BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- スリープから元の状態に戻るとき（スリープ中に電源が切れた場合のみ）
- 休止状態から元の状態に戻るとき

また、BIOS のパスワードといっしょにハードディスクセキュリティを設定すると、ハードディスクの盗難による情報漏洩や不正使用を防止できます。パスワードの入力を要求されるタイミングは、BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」で設定します。

- 使用しない
BIOS セットアップを始めるときにパスワードを要求されます。
- 最初のみ
パソコンの電源を入れたときにパスワードを要求されます。
- 毎回
パソコンの電源を入れたとき、およびパソコンを再起動したとき、パスワードを要求されます。

Point

- ▶ 「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」を「使用しない」に設定している場合「起動時のパスワード」を「最初のみ」または「毎回」に設定しても、テレビの録画予約によってパソコンを自動的に起動するとき（テレビチューナー搭載機種のみ）や、Wake up on LAN 機能などを使ってパソコンを自動的に起動する場合にはパスワードを要求されません。

■ BIOS のパスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンで BIOS のパスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

- パスワード設定時は、必ず次のことを行ってください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・「パスワードを変更する／削除する」(→ P.79) を印刷しておく
 - ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておくまた、これらは安全な場所に保管しておいてください。管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます。
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしてもパスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。パスワードの管理には充分注意してください。
- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。その場合は、**[Enter]** を押し、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、次の状態になります。
「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。

■ パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の 3 つです。

- 管理者用パスワード
このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方(ご家族など)が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。

■ パスワードを設定する

パスワードを設定する方法を説明します。

1 BIOS セットアップを起動します。

2  または  で「セキュリティ」を選択します。

「セキュリティ」メニューが表示されます。

3  または  で設定したいパスワードの項目を選択し、 を押します。

次のいずれかの項目を選択します。

- ・ 管理者用パスワード設定
- ・ ユーザー用パスワード設定
- ・ ハードディスクセキュリティ▶ドライブ n 用パスワード設定

※n に入る数字は機種により異なります。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

4 1～32 桁までのパスワードを入力します。

- ・ 入力できる文字種は半角英数字（a-z、A-Z、0-9）、半角スペース、半角記号（[] を除く）です。
- ・ 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- ・ BIOS セットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することができません。

次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	=		]	'		`
対応するキー	^	@	[	:		半角／全角

次の文字を入力する場合は、 を押しながら対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	(	)
対応するキー	2	6	7	8	9	0

入力する文字	_	+	{	}	:	!	~
対応するキー	-	^	@	[	;	]	半角／全角

5 パスワードを入力したら  を押します。

パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

6 手順4で入力したパスワードを再度入力して **[Enter]** を押します。

- ・パスワードが一致した場合は、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- ・パスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、手順3からやり直してください。
- ・パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

7 **[Enter]** を押して、設定を終了します。**8** BIOS セットアップを終了します (→ P.74)。

設定内容を保存して終了してください。

■ パスワードを変更する／削除する☐ **パスワードを変更する**

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューから、変更したいパスワードの項目を選び、**[Enter]** を押します。

「パスワードを設定する」(→P.78) の手順1～3を行ってください。

2 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。

新しいパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 1～32桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。

パスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

4 手順3で入力したパスワードを再度入力して **[Enter]** を押します。

- ・パスワードが一致した場合は、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。
- ・パスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、手順1からやり直してください。
- ・パスワードの設定を中止するときは、**[Esc]** を押してください。

5 **[Enter]** を押して、設定を終了します。**Point**

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。

☐ **パスワードを削除する**

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順3～4で何も入力せずに、**[Enter]** を押してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

■ メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を標準設定値（ご購入時の設定）に戻して起動し直してください。

それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器やメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらを取り外し、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書<スタートガイド>』をご覧ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンの電源を入れ直して、動作を確認してください。また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

これらの処置をしても、まだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

■ メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージ一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

エラーメッセージ	対処方法
BOOT Failure 選択したデバイスから起動できませんでした。	起動メニューからデバイスを選択して、起動できなかったときに表示されます。 [Enter] を押すと起動メニューに戻ります。起動デバイスが正しく接続されているか確認し、選択し直してください。または正しいデバイスを選択し直してください。
Bootable Device were not found. 起動可能なデバイスが見つかりませんでした。	起動可能なデバイスが見つからなかった場合に表示されます。 [Enter] を押すと BIOS セットアップが起動しますので、「詳細」メニューで「起動デバイスの優先順位」を選択して、起動可能なデバイスが表示されているかどうかを確認してください。
CPU Fan Error CPU ファンエラーまたは CPU ファンが接続されていません。	「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
Event Log area is full. No more events will be logged. To clear event logs, please enter BIOS Setup. イベントログの記録領域が一杯になりました。BIOS セットアップを起動して、イベントログを削除してください。	イベントログの記録領域がいっぱいになったことを示しています。 [F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「詳細」メニューで「イベントログ設定」－「イベントログの消去」の順に選択して [Enter] を押してください。確認のメッセージが表示されるので、「はい」にカーソルを合わせ、 [Enter] を押してください。
Press F1 to Resume Press F2 to Run Setup <F1>キーを押すと継続します。 <F2>キーを押すと BIOS セットアップを起動します。	起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。発生しているエラーを無視して OS を起動する場合は [F1] を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を変更する場合は [F2] を押してください。
Invalid NVRAM Data NVRAM データが正しくありません。	NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。本メッセージが表示されているときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
Keyboard/Interface Error. キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。	キーボードコントローラーのテストでエラーが発生したことを示しています。キーボードが正しく接続されていることを確認し、電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

エラーメッセージ	対処方法
NTLDR is missing Press any to restart システムの起動に必要な情報が正常に読み取れません。なにかキーを押してパソコンを再起動してください。	電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
System CMOS checksum bad システム CMOS のチェックサムが正しくありません。	CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。[F2]を押して、BIOS セットアップを起動し、BIOS をご購入時の設定に戻してください（→P.75）。それでも本メッセージが表示されるときは、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
System Disabled システムは使用できません。	不正確なパスワードが入力されました。電源ボタンを押して電源を切り、もう一度このパソコンの電源を入れてください。パスワードを忘れてしまった場合は、修理が必要になります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
Check Date and Time settings 日付と時刻の設定を確認してください。	日付と時刻の設定値が正しくありません。設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
Real Time Clock Error リアルタイムクロックのエラーです。	リアルタイムクロックのテストでエラーが発生したことを示しています。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

BitLocker ドライブ暗号化

Windows 10 Pro 64 ビット版は BitLocker ドライブ暗号化機能を搭載しています。この機能を利用するとパソコンのハードディスクを暗号化してデータを安全に管理できますが、修理などを行うとパソコンが起動しなくなる場合があります。

このようなことが起きないように、BitLocker ドライブ暗号化機能をご利用になる場合には次のことに注意してください。

「回復キー」の保管

BitLocker ドライブ暗号化を設定するときに「回復キー」が作成されます。「回復キー」は非常に重要です。

重要

- ▶ 「回復キー」は紛失しないよう安全に保管してください。
- 修理から戻って来たときに、「回復キー」の入力を求められることがあります。
- 「回復キー」がないとパソコンが起動しなくなったり、データを消失したりする場合があります。
- 管理の方法の例：
 - ・ USB メモリなどに保存する（他のパソコンなどで参照できるようにしてください）
 - ・ 紙に印刷する

修理をするときの注意事項

BitLocker ドライブ暗号化を設定したパソコンを修理する場合の注意事項です。

■ 修理前に

- 「回復キー」を確認してください。USB メモリなどに保存した場合は、他のパソコンなどで参照できるか確認してください。
見つからない場合は再度作成して紛失しないようにしてください。
- BitLocker ドライブ暗号化機能を一時的に無効にするために「保護の中断」を行ってください。

■ 修理から帰ってきたら

- 「回復キー」の入力画面が表示された場合
 - ・ 「回復キー」を入力してください。
 - ・ パソコンが起動したらいったん「保護の中断」を行い、その後「保護の再開」を行ってください。
- 「回復キー」の入力画面が出ない場合
 - ・ 「保護の再開」を行ってください。